



新城小学校研究公開



発行所
鹿児島県青少年赤十字
指導者協議会
事務局
日本赤十字社鹿児島県支部
鹿児島市鴨池新町1番5号
電話(代表)252-0600

青少年赤十字

実践目標
健康・安全・奉仕・国際理解・親善
態度目標
気づき、考え、実行する

夏季リーダーシップ・トレーニング・センター等
海外(ベトナム共和国)派遣(高校生)事業 報告
垂水市立新城小学校研究公開



「イトスギ」の
生長とともに
青少年赤十字指導者協議会
会長 有馬 修吾
(垂水市立新城小学校長)

今年、二月八日に垂水市立新城小学校で、青少年赤十字研究推進校研究発表会が行われました。当校では、「思いやりの心を育み、主体的に活動する子どもの育成」をテーマに研究に取り組み、当日は思いやりの心を持ち共に学ぶ姿、よりよい方法を考え行動する姿など成果を子どもの姿で見せてくださいました。子どもたちは、本来「思いやりの心」を持っています。ただ、それを発揮する場がないために、どのような行動をとればよいのかが分からないのが実情だと思います。その機会を与えてくれるのが学校内外の様々な取組を体験できる青少年赤十字活動だと言えます。最近では東日本大震災がありました、各学校では迅速に対応していただき、被災地の力になるとともに、支援を行った子どもたちにとっても大きな体験になったものと思います。

今、新城小学校の校庭には、賛助奉仕団の内宮孝雄先生からいただいた「イトスギ」の苗がすくすくと育っています。これは、内宮先生が赤十字活動の原点と言われるイタリアのソルフェリーノの地から持ち帰った種から育てたものです。赤十字の原点を忘れず、このイトスギの生長とともに青少年赤十字活動が一層発展していくことを願っています。



「イトスギ」と
青少年赤十字
青少年赤十字賛助奉仕団
委員長 笹田 茂

「イトスギ」が、赤十字のシンボルツリーとしての起因を尋ねてみましょう。赤十字の崇高な精神を生み出す背景を、アンリー・デュナンはその著書「ソルフェリーノの思い出」の中に、「……筆にも口にも出来ないような戦いの後、優雅な姿のイトスギの丘を頂点とする、幾つかの高地や丘陵を占領する。イトスギの丘は、ソルフェリーノの塔や墓地と共に、これらの地の目撃者でもあり、その血なまぐさい舞台となった恐ろしい殺し合いによって長く有名になった。……」と記述された。イトスギの木陰が、戦場で傷ついた兵士への救援・救護や癒しの「場」になったことでしょうか。

「イトスギ」が青少年赤十字の記念樹になったのは、二つの史実が裏付けています。

一つは、赤十字思想誕生の百周年にあたる、一九五九年五月、青少年赤十字全国大会で、当時の日本赤十字社長島津忠承氏が、イタリア赤十字から寄贈されたイトスギの種子を参加者に配布したこと。

もう一つは、一九七三年、全国青少年赤十字指導者協議会(現指導者協議会)がアンリー・デュナン追跡視察旅行をした時、ソルフェリーノの丘のイトスギから採取し全国指導者協議会の会場で、各都道府県会長へ手渡されたことにある。

「イトスギ」を育てて行くことは、まさしく、アンリー・デュナンが残してくれた赤十字の精神・思想を普及していくことに通じているのです。

第6ブロック青少年赤十字海外(ベトナム共和国)派遣事業

参加者 増満寛朗(鹿児島高校3年), 宗方綾香(薩南工業高校2年)

指導者 高崎武士(南九州市立青戸中学校教諭)

期間 平成24年8月16日(木)~21日(火)

海外派遣事業

鹿児島高等学校 増満 寛朗

ベトナムでは多くのことを学びました。はじめ私はベトナムに対して「治安が悪い」「衛生面が心配」などあまり良いイメージを持っていませんでした。しかし、実際にベトナムの土を自分の足で踏みしめることで、そのイメージは360度といわずに540度くらい変わりました。第一に、ベトナムの人はすごく温かくて温もりがありました。本当に、一人ひとりが溢れんばかりの笑顔で接してくれるので、自分の心まで温まりました。第二に、ベトナムの食べ物は安全です。今回の派遣事業では沢山の食べ物を、どれもおいしく頂きました。今回の派遣事業を通じて得たことを、これからの人生に生かしていきたいです。



海外派遣事業に参加して

薩南工業高等学校 宗方 綾香

今回私は、海外派遣事業を通して人々とのつながりや海外での取り組みなどさまざまなことを学ぶことができました。赤十字本社の表敬訪問や RCY メンバーとの交流、老人ホームへの訪問、記念樹やハロン湾視察など5泊6日で行ったいろいろなことに挑戦させていただきました。海外での生活は日本とは違い不安でしたが、先生方やメンバーと協力して今まで分からなかったことを知ることができました。また、言葉もまったく違うため身振り手振りでなんとか伝えることができました。この事をきっかけに、もっと様々なことにチャレンジしていきたいです。



地域の方々からも、「新城の子どもの爽やかなあひさつに元気をもらっています。」子どもたちが生き生きとしていますね。一生懸命に働く姿が気持ちいい。といった声が多く寄せられるようになりました。わたしたちの取組は、まだまだ始まったばかりです。御講演いただいた文部科学省初等中等教育局視学官

本校児童は、道徳の授業や様々な体験活動を通して、他人の気持ちや様子、周りの現状に「気づく」ことができるようになりまし。そして、どのようしたらよいかを一生懸命に「考え」、よいと思ったことを進んで「実行できる」ようになってきました。本校児童は、道徳の授業や様々な体験活動を通して、他人の気持ちや様子、周りの現状に「気づく」ことができるようになりまし。そして、どのようしたらよいかを一生懸命に「考え」、よいと思ったことを進んで「実行できる」ようになってきました。



青少年赤十字研究推進校研究発表会を終えて

垂水市立新城小学校長

松尾 正昭

本校は、平成二十三・二十四年度の二年間にわたり、日本赤十字社鹿児島県支部・県青少年赤十字指導者協議会の研究委嘱を受け、関係各位の御指導、御協力をいただきながら研究・実践に取り組みでまいりました。平成二十五年二月八日の研究公開の際には、県内外から多くの御参加をいただき、これまでの取組の一端を御紹介できたことをたいへん嬉しく思います。

三好仁司先生の貴重な御講話、森山小学校長、高島英夫先生の具体的な御指導、御出席いただいた先生方の御意見・御感想を今後の研究・実践に生かし、「思いやりの心をもち、主体的に活動する子どもの育成」に努めてまいりたいと思います。本校の研究を支え、御指導・御助言くださいました日本赤十字社鹿児島県支部、県青少年赤十字指導者協議会、青少年赤十字賛助奉仕団をはじめ、関係各位に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

平成24年度 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター、指導者講習会

小学校トレセン

8月4日(土)~6日(月)
霧島自然ふれあいセンター

中学校トレセン

8月6日(月)~8日(水)
霧島自然ふれあいセンター

高等学校トレセン

8月6日(月)~8日(水)
霧島自然ふれあいセンター

指導者講習会

8月4日(土)~5日(日)
霧島自然ふれあいセンター



東日本大震災を機に高まったボランティアへの関心。募金活動や激励のメッセージを送る等の活動を続けている学校もあり、大変うれしく思っています。そこで夏季小トレのテーマは「絆を深め続けよう」と「気づき・考え・みんなで行く」にしました。参加した子どもたちは、フィールドワークやワークショップ等のプログラムを経て、ホームの絆を深めることにも、ボランティアを続けることの大切さに気づくことができました。参加者が各学校でリーダーとして活躍し、ボランティアを続けていく姿を期待しています。

ポランティアを続けるために
主任 鹿児島市立花野小学校 真鍋 雄一郎

小学校トレセン

主な内容
青少年赤十字について、健康安全プログラム、野外活動ワークショップ、情報交換
参加校名(順不同)
取元、名山、前之浜、桜丘東、米ノ津東、本城(鹿野)、垂水、新城、城南、花野、吉野

中学校トレセン

主な内容
赤十字と青少年赤十字について、情報交換、健康安全プログラム、VSについて、野外活動、ワークショップ
参加校名(順不同)
甲東、伊敷、武岡、谷山、加世田、米ノ津、福山、有明、錦江、青戸、喜入、菱田、吉野



トレセンを終えて
主任 大崎町立菱田中学校 蓮子 さゆり

今年度も、多くの中学生と共に充実したトレセンを行うことができ、嬉しく思います。そして、生徒に限られた時間の中で気づき、考え、実行する姿を見ながら、私も自分自身を振り返る三日間となりました。以前、赤十字の研修で「教師は子どもの様子に気づくセンスをもつことが必要」という話を聞ききました。生徒の微妙な変化や変換に気づき、それを伸ばしたり改善したりするのは、教師の役割のひとつだと改めて考えさせられました。いつも自分を振り返るきっかけを与えてくれる生徒に感謝しながら、これからも生徒と共に活動できる教師でありたいと思います。

高等学校トレセン

主な内容
青少年赤十字について、情報交換、健康安全プログラム、野外活動、ワークショップ
参加校名(順不同)
鹿児島高、薩南工業高、鹿児島女子高、鹿児島情報高
高校トレセンを振り返って
主任 鹿児島高等学校 新留 奈津子

今年度は例年と異なり、ワークショップの時間を、学校へ帰ってから取り組む計画作りの時間ではなく、被災地の高校生へ向けて、メッセージ作りの時間として使い、開くと赤十字マークが出来上がる形のアルバムを完成させました。限られた時間の研修でしたが、先の事を考え、自分から進んで行動する楽しさを知った、自分に自信がついたと、参加者が感想を述べてくれました。スタッフ不足、参加者・参加校の減少が続いていますが、トレセン活動が先細りにならないよう取り組みたいと思います。



指導者講習会

主な内容
赤十字について、情報交換、救急法、交流会、野外活動、ワークショップ
参加校名(順不同)
鹿児島幼稚園、恵光保育園、隈之城保育園、清溪幼稚園、名山小学校、垂水小学校、知覧中学校、水引中学校、ほびあこども保育園、新城小学校、あけぼの保育園、山川小学校



講習会を終えて
主任 南九州市立青戸中学校 高崎 武士

今年もまた、新しい風が吹きました。本講習会は一泊二日と短いですが、スタッフのみならず、受講者のみなさんの協力もあり、実りの多い充実した会にすることができたと思います。赤十字、青少年赤十字に関する研修や救急法、野外活動、情報交換などを通して学んだことを、二日間はワークショップにて各学校で、できることを活動計画案にまとめることができました。この講習会が青少年赤十字の指導者としての入り口であり、それぞれの先生方がこれから「気づき・考え・実行する」ことで、さらに青少年赤十字の輪が広がっていくのではないかと考えます。一つでも多くの輪が広がっていくように協力しサポートしていきたいと思ます。

NHK海外たすけあい 募金活動

十二月一日(土)から二十五日(火)まで実施された「NHK海外たすけあい」キャンペーンの一環として、日赤鹿児島県支部は県内三カ所(鹿児島市、薩摩川内市、鹿屋市)で街頭キャンペーンを実施しました。青少年赤十字加盟校の小・中・高校生は賛助奉仕団などと総勢一六〇名で「NHK海外たすけあい」の募金の呼びかけを行いました。募金額は合計で二二四、二四九円でした。

皆様から寄せられた寄付金は、世界各地で苦しんでいる人々を救う国際活動の事業に使われます。ご協力有難うございました。

- 12月1日(土) 鹿屋市・薩摩川内市
- 12月8日(土) 鹿児島市
- 12月15日(土) 鹿児島市



一日リーダーシップ・トレーニング・センター

小学校

期日: 平成25年2月23日(上)
内容: 非常食の実習、「ボランティアとは?」、赤十字と青少年赤十字等
参加校: 中洲、城南、鴨池、中郡、清和、桜丘東、前之浜、南方、宇宿、日新、向花、菅牟田、輝北、垂水、新城



中学校

期日: 平成25年1月26日(土)
内容: 非常食の実習、青少年赤十字と生徒会活動、私たちの生徒会(ボランティア)活動、ワークショップ等
参加校: 加世田、伊敷台、甲東、三笠、米ノ津、青戸、桜島、武岡、谷山、伊敷、金峰、知覧、喜入、南、田之浦、和田、第一鹿屋、大崎第一、吉野、桜丘、谷山北



高等学校

期日: 平成25年2月17日(日)
内容: 非常食の実習、春季総会創作活動「今、私たちに出来ること」
参加校: 樟南、鹿児島女子、薩南工業、鹿児島、鹿児島情報、甲南、鹿児島玉龍



加盟校(園)数(2月28日現在)

幼稚園 38 園, 保育園 23 園
 小学校 260 校, 中学校 120 校
 高等学校 21 校, 特別支援学校 1 校
 合計 463 校(園)

★平成24年度 新規加盟校(園)★

田皆保育所	(1園)
山川小, 下水流小, 阿久根小, 輝北小, 光神小, 恒吉小, 中谷小, 岩南小, 田之浦小, 大崎小, 神之嶺小, 神村学園初等部	(12校)
喜入中, 垂水中央中, 大崎第一中, 第一佐多中, 喜界中, 天城中	(6校)

計 19 校(園)

鹿児島県支部
創設120周年
記念

「絵画・100文字作文」 コンクール

県支部の創設120周年を記念して、「人道・博愛」の精神の普及を目的に、「絵画・100文字作文コンクール」を実施し、県内の114校(園)から3,214点の応募がありました。

平成24年10月27日(土)に受賞者への表彰式をイオンモール鹿児島で行いました。

また、受賞作品は同じくイオンモール鹿児島に展示し、多くの来場者が作品を鑑賞していました。

